

しそ

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき露地 春まき露地（おおば）				●は種	●	—	■収穫				☆電照	☆	
斑点病 アブラムシ ハダニ ハスモンヨトウ						—	—	—	—				
夏まき加温（おおば養液栽培）					☆				☆	●●▲▲	—		
斑点病 アブラムシ アザミウマ ハダニ ハスモンヨトウ						—	—	—	—	—	—	—	—

斑点病

留意事項

- 1 気温20℃以上で多湿時に発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。QoI剤（1 1）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 キノンドー水和剤40、ダコニール1000は、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 初発生時に、下記の薬剤を株元散布する。
 - ・ キノンドー水和剤40 M 1 【1,000倍 前日／4回】
 - ・ ダコニール1000 M 5 【株枯症 1,000倍 前日／4回】
- 3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ アミスター20フロアブル 1 1 【2,000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2,000倍 3日／2回】
- ・ [エコショット](#) BM2 【2,000倍 前日／—】

さび病

留意事項

- 1 5～6月に発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。QoI剤（1 1）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【5,000倍 収穫開始10日／3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【4,000倍 21日／2回】
 - ・ [サンリット水和剤](#) 3 【5,000倍 前日／3回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000倍 前日／2回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4,000倍 3日／3回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【3,000倍 3日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【4,000倍 前日／2回】
 - ・ [ウララDF](#) 2 9 【4,000倍 3日／2回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 スピノエース顆粒水和剤は、希釈倍数を間違えないよう注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【しそ科葉菜類 10,000倍 3日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【4,000倍 前日／2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 ミヤコカブリダニ、または、チリカブリダニを利用する場合は発生初期に放飼する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、ミヤコカブリダニ（スパイカルEX）または、チリカブリダニ（スパイデックス等）を放飼する。

・ [スパイカルEX](#) — (生)

【野菜類 100～1,250ml (約2,000～25,000頭) /10a 発生初期/—】

・ [スパイデックス](#) — (生)

【野菜類 (施設栽培) 100～300ml (約2,000～6,000頭) /10a 発生初期/—】

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [コロマイト乳剤](#) 6 【2,000倍 前日/2回】

・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D

【しそ科葉菜類 (除えごま (葉)) 1,500倍 3日/1回】

・ [スターマイトフロアブル](#) 25A 【2,000倍 3日/1回】

・ [アフーム乳剤](#) 6 【2,000倍 7日/2回】

・ [ニッソラン水和剤](#) 10A 【3,000倍 14日/1回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アディオン乳剤](#) 3A 【4,000倍 前日/2回】

・ [BT剤](#) 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

・ [アフーム乳剤](#) 6 【2,000倍 7日/2回】

・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000倍 7日/2回】

・ [カスケード乳剤](#) 15 【しそ科葉菜類 (除バジル) 4,000倍 3日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。